

地下式横穴墓と鏡

地下式横穴墓は、古墳時代における南九州独自の墓制である。これまでに1,000基を超える地下式横穴墓が発見されている。

地下式横穴墓には、“ない”場合も少なくないが、様々な副葬品が見られる。その1つである鏡は、政治や祭祀における、権力や呪力のシンボルであったと言われるが、地下式横穴墓を墓制とする地域ではどうであったのか。2013年度の企画展Ⅰ「鏡が秘めたカ―弥生時代から古墳時代の鏡―」の中で、これについて考えることにした。下の表は、鏡の面径の小さいものから順に一覧したものであるが、その理由は・・・



西都原4号地下式横穴墓出土の
珠文鏡

鏡名	出土地下式横穴墓	市町村	地域	面径	古墳群内に前方後円墳
珠文鏡	東二原2号地下式横穴墓	小林市	内陸部：西諸県地方	5.0 cm	
変形獣形鏡	宋仙寺10号地下式横穴墓	国富町	平野部：広義の宮崎平野部	6.5 cm	
四獣形鏡	大坪2号地下式横穴墓	国富町	平野部：広義の宮崎平野部	7.1 cm	
獣形鏡	築池95号地下式横穴墓	都城市	内陸部：都城盆地・北諸県地方	8.2 cm	あり
内行花文鏡	神領1号地下式横穴墓	大崎町	平野部：大隅半島志布志湾沿岸	8.6 cm	あり
乳文鏡	市ノ瀬5号地下式横穴墓	国富町	平野部：広義の宮崎平野部	8.7 cm	
珠文鏡	西都原4号地下式横穴墓	西都市	平野部：広義の宮崎平野部	8.8 cm	あり
五獣形鏡	小木原1号地下式横穴墓	えびの市	内陸部：えびの・大口盆地	9.0 cm	
素文鏡か	六野原35号地下式横穴墓	国富町	平野部：広義の宮崎平野部	9.2 cm	あり
乳文鏡	市ノ瀬5号地下式横穴墓	国富町	平野部：広義の宮崎平野部	10.8 cm	
盤龍鏡	下北方5号地下式横穴墓	宮崎市	平野部：広義の宮崎平野部	11.0 cm	あり
四獣形鏡	六野原10号地下式横穴墓	国富町	平野部：広義の宮崎平野部	11.6 cm	あり
四獣形鏡	下北方5号地下式横穴墓	宮崎市	平野部：広義の宮崎平野部	12.0 cm	あり
一神六獣鏡	築池92-2号地下式横穴墓	都城市	内陸部：都城盆地・北諸県地方	15.2 cm	あり

実資料が現在所在不明であるものとして、国富町（平野部：広義の宮崎平野部）の「猪塚」地下式横穴墓出土の画文帯神獣鏡（15 cm 強 or 18 cm）・二神二獣鏡（12 cm 強 or 11 cm）・四獣形鏡がある^{※1}。

- 地下式横穴墓が1,000基以上も発見されている一方で、鏡の副葬された地下式横穴墓は、およそ15基と極端に少ない。
- 鏡出土地下式横穴墓の分布は、その大半が平野部であり、内陸部にはほとんどない。
- 福尾正彦氏が以前整理したように^{※2}、墓1基に対し、鏡1枚（多くて2枚）である
- 鏡出土地下式横穴墓は、それを含む墓群の中で、墓の規模や副葬品の組合せが、他よりも相対的に勝る場合が多い。
- 地下式横穴墓出土の鏡は、たとえばその古墳群中に前方後円墳を持つといった、畿内との関係性の強い場合、面径が大きく仕上がりの良い鏡が副葬される傾向がある。

個人的には、鏡の面径の大小が、畿内との関係性の強弱を暗に示しているような点は、わかりやすい現象であるだけに面白い。その背景を思うと、“モノの流通”の視点で、鏡をはじめ地下式横穴墓出土品を位置付けてみる必要性を強く感じる。

※1 吉村和昭 2008 「寛政元年発見「猪塚」地下式横穴墓とその評価」『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第4号

※2 福尾正彦 1980 「日向中央部における地下式横穴とその社会」『古文化談叢』第7集